

## 町の教育に貢献したい

### 新教育委員へ辞令交付

9月10日(木)町長室で小野町長より、新しく町教育委員に就任する東山綾子さんへ辞令が手渡されました。町長は「よく教育委員就任を受諾していただいた。制度改正などあり大変だと思うがよろしく願いたい」と挨拶すると、東山さんは「町の教育に貢献していきたい」と抱負を述べました。

また、11日(金)には新しく教育委員長に就任した宮越寛さんが小野町長を訪問しました。宮越さんは「町の教育について、これからも力を合わせて取り組んでいきたい」と話していました。



## 町の発展・平和を誓う

### 戦没者追悼式

町戦没者追悼式が、8月27日(木)中央公民館近くの慰霊碑前で行われました。式には、遺族会や関係者ら約100人が追悼に訪れました。国歌斉唱、黙祷に続き、遺族会主催の慰霊祭が行われ、各代表者が玉串を捧げました。

式辞では、小野町長が「戦後70年を経た今も忘れられない深い悲しみが残る。先人たちが築き上げた今日の平和と繁栄を手放さないよう努力する」と述べました。また、県知事、県遺族会、中里遺族会代表が追悼の辞を述べました。最後は、参列者全員が慰霊碑に菊の花を献花し、祈りを捧げていました。

## 美味しい毛豆採れました

### こども園園児が収穫体験

6月に種まきをした毛豆を収穫しようと、富野こども園と薄市こども園の園児約30人が9月17日(木)に野上健さん(上高根)の畑を訪れました。

毛豆の種は五所川原農林高校から提供を受けたもので、子どもたちは説明のあと、ひとつひとつ収穫していました。根っこがなかなか抜けないときは、数人で協力して引っ張り、高校生たちと一緒に袋いっぱいになるまで毛豆を集めました。その後、塩ゆでにしてみんなで味わいました。

収穫体験した園児たちは「力をいれないと抜けなくて大変だったけど、毛豆は美味しかった」と話していました。



## 家から離れて生活

### 中央公民館で通学合宿

子どもたちが親元を離れ、自活しながら学校に通う通学合宿が、9月16日(水)～19日(土)の4日間、中央公民館で行われました。

中里地域の子どもたち合わせて29人が参加。3チームに分かれ、それぞれに弘前大学生のボランティアがリーダーとしてつき、食料の買い出しや料理、宿題を一緒にしました。夕食を作るときは、町食生活改善推進員も手伝い。普段は自分であまり料理をしないせいか、苦勞している子どもたちもいましたが、大学生のサポートもあり、おいしい夕食ができていました。

## あまいメロンに大興奮

こども園園児らがメロンの収穫体験

メロンの収穫を体験してもらおうと、9月18日(金)佐藤イネ子さん(薄市下)が富野こども園と薄市こども園の園児らを自身の畑に招待しました。各こども園から代表がメロンを1つずつ収穫すると、子どもたちは順番にメロンを持ち上げて重さを確認していました。

その後、試食のため切られたメロンが出されると、子どもたちは目を輝かせて、いただきますの挨拶を待っていました。試食が始まると一斉に食べ始め、みんなでおかわりをしていました。園児たちは「思っていたよりも大きくて重かった。メロンはあまくて美味しかった。お家でも食べたい」と話していました。



## 華麗な体操に歓声

小泊小に青森山田高校新体操部が来校

優れた集団演技を觀賞し心と体の調和のとれた児童の育成を目的に、9月3日(休)小泊小学校が青森山田高校新体操部を招待しました。この日は、保護者だけでなく地域の住民も訪れていました。

始めに、生徒たちの手助けのもとトランポリンを使って前方宙返りを体験。子どもたちは笑顔で宙返りをしていました。その後、体操を披露。統一された動きに会場からは拍手や歓声があがりました。演技を見た子どもたちは「みんな同じ動きできれいだった。自分も体操をやってみたい」と話していました。

## プールでカヌー体験!

B&G海洋センターでカヌー教室

プール閉館後にプールの有効利用と水上のレクリエーションを体験してもらおうとカヌー教室を行いました。教育委員会の田中さん(B&Gリーダー資格取得者)より、パドルの使い方やカヌーの乗り降り、落ちた時の対処方法を習った後、実際にカヌーに乗ってみました。最初はなかなか真っすぐ進むことができなかつた子も慣れてくるに従って上手に進めるようになり、プールの中を所狭しと漕ぎまわっていました。体験した子どもたちは「楽しかった。もっとやりたかった」と名残惜しそうにカヌーから降りていました。



## 出発進行!

駅ナカにぎわい空間で鉄道カフェ

津軽鉄道85周年を記念して鉄道カフェが9月20日(日)~22日(火)に津軽中里駅駅ナカにぎわい空間で開催されました。

会場には日本中の鉄道写真や鉄道模型の展示が行われ、来場者は楽しそうに觀賞していました。Nゲージ運転手ゲームでは、新幹線のはやぶさを停止線ギリギリに止めようと挑戦者は真剣な表情で操作していました。

## 漁業への理解深める

小泊小3年がふるさと学習

**講**演や実習を通して、地元産業である漁業に対する理解・興味を深めようと小泊小学校3年生が、9月2日(水)学習会を行いました。

この日は小泊漁協で地元で獲れる魚の学習を行いました。鱈ヶ沢漁港事務所職員から魚の種類、生態について講義を受け、目、鼻、耳、口はどこにあるかなど学びました。児童らは熱心にメモをとったり、質問したりしていました。

その後小泊漁協婦人部の指導のもと、サザエ入りカレーづくりが始まりました。包丁の扱いに気をつけながらサザエやイカ、ジャガイモ、人参などを丁寧に切っていました。できあがってからは、全員で試食し、サザエの風味がきいたカレーを味わい、「おいしい、おいしい」とおかわりをする児童もいました。



## 米づくりを学ぶ

武田小5年生がふるさと学習

**武**田小学校5年生14人が、役場農政課職員を招き、中里地域のお米づくりなどを学びました。

児童たちは、町の農業の概要の説明を受け、地域のお米づくりの発展、野菜の作付状況、特色ある取組みをしている人などの説明を受けました。

授業を受けて児童たちは「米づくりについて、今勉強しているところなのでとても参考になった。大人になったら農家になりたい」などと感想を発表しました。

## 学校給食でも地産地消

給食おもしろいやり隊が武田小を訪問

**町**内でとれた食材を学校給食へ提供している「給食おもしろいやり隊」の佐藤イネ子さん、田中恵津子さん、葛西昭子さん、田中千鶴さんが武田小学校を訪れ、3年生児童と給食の時間を共にしました。訪問した9月4日(金)の献立はトマト、じゃがいも、なすを使った夏野菜カレー。なすが苦手な児童も「これなら食べられる」と話し、完食していました。

佐藤さんは、「生きるために食べ物はなくはないもの。誇りを持ってがんばっているので、皆さんも勉強をがんばってください」と、思いを伝えました。児童たちは「おいしかったです。どんな材料が使われているかを知ることができて良かったです」と感想を話していました。



## 社会人を経験

木造高校生徒が職場体験

**木**造高校の生徒3人が、9月2日(水)から4日(金)町役場や施設でインターンシップを行いました。町役場では、町民課での書類整理や図書館での書架整理と児童スペースの装飾作成を体験。またピュアのパン加工場でケーキ作りに挑戦しました。

体験した熊木寧々さん(新町1)は「様々な場所で貴重な体験ができた。これからの学生生活や進路に活かしていきたい」と話していました。

